

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2025 年 1 月～3 月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2025 年 4 月

宮 城 県 商 工 会 連 合 会

中小企業景況調査報告書

2025 年 1 月～3 月

[調 査 要 領]

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名 取 市 商 工 会 、大 河 原 町 商 工 会、み や ぎ 仙 台 商 工 会、
利 府 松 島 商 工 会、く ろ か わ 商 工 会、加 美 商 工 会、
遠 田 商 工 会、若 柳 金 成 商 工 会、み や ぎ 北 上 商 工 会、
石 巻 か ほ く 商 工 会
- (2) 対 象 企 業 数 1 5 0 企 業
- (3) 回 答 企 業 数 1 4 9 企 業

2. 調査対象期間

2025 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は 2025 年 3 月 1 日とした。

3. 調 査 方 法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 4
小 売 業	4 3
サービス業	5 0
合 計	1 4 9

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2025 年 1 月～3 月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より△9.1 ポイント悪化し△45.3（前期△36.2）となった。産業別では、製造業が△56.3（前期△31.3）で△25.0 ポイントの悪化、建設業は△33.3（前期△45.8）で 12.5 ポイントの改善、小売業は△52.4（前期△46.5）で△5.9 ポイントの悪化、サービス業では△38.0（前期△26.0）と△12.0 ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、製造業、建設業、サービス業で改善する一方、小売業ではほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

表－1 業況D I の状況と来期見通し（前年同期比・D I）

業 種	前 期	今 期	来期見通し
全 産 業	△ 36.2	△ 45.3	△ 34.5
製 造 業	△ 31.3	△ 56.3	△ 37.5
建 設 業	△ 45.8	△ 33.3	△ 25.0
小 売 業	△ 46.5	△ 52.4	△ 52.3
サービス業	△ 26.0	△ 38.0	△ 22.0

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業は 12.5%で前期比△3.1 ポイント減少、建設業が 8.3%で前期比横ばい、小売業では 2.3%で前期比△9.3 ポイント減少、サービス業でも 8.0%で前期比△4.0 ポイントの減少となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業で減少、建設業で横ばい、小売業、サービス業で増加する見通しとなっている。

表－2 設備投資の状況と来期計画（企業割合・%）

業 種	前 期	今 期	来期計画
製 造 業	15.6	12.5	6.3
建 設 業	8.3	8.3	8.3
小 売 業	11.6	2.3	7.0
サービス業	12.0	8.0	14.0

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2025年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2024年12月調査）と比較し、「製造業が1ポイント上昇しプラス2、非製造業はプラス16で横ばい。米国の関税政策への警戒感や海外需要の減少による輸出の伸び悩みに加え、人手不足や物価高が景況感を下押しする一方、家計の所得環境が改善傾向にあるほか、インバウンド需要も堅調に推移していることから、非製造業の景況感が高水準を維持する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、建設業、小売業で悪化、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業、建設業、小売業で全国・東北以下、サービス業で全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 15.7	△ 15.1	△ 27.1	△ 25.4	△ 43.8	△ 53.1
建 設 業	△ 12.6	△ 14.4	△ 33.1	△ 34.5	△ 39.1	△ 43.5
小 売 業	△ 26.2	△ 25.5	△ 38.0	△ 42.2	△ 37.2	△ 51.2
サービス業	△ 6.1	△ 12.4	△ 15.4	△ 22.5	△ 20.0	△ 6.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で製造業、小売業、サービス業で悪化、建設業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、小売業、サービス業で全国・東北以下、建設業で全国以下・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 24.7	△ 26.3	△ 25.5	△ 33.0	△ 46.9	△ 56.3
建 設 業	△ 21.4	△ 25.2	△ 40.5	△ 39.3	△ 50.0	△ 37.5
小 売 業	△ 33.7	△ 37.0	△ 45.5	△ 54.2	△ 41.8	△ 60.5
サービス業	△ 25.5	△ 31.2	△ 33.7	△ 43.3	△ 44.9	△ 53.1

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2025年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が15.6ポイント、建設業で13.1ポイント、サービス業で2.0ポイントの改善、小売業は△4.6ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で22.0ポイント、建設業で8.4ポイント、小売業では2.3ポイント、サービス業では14.3ポイント改善の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国・宮城で改善の見通し。小売業では売上が全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 15.1	△ 9.6	△ 53.1	△ 37.5
建 設 業	△ 14.4	△ 15.7	△ 43.5	△ 30.4
小 売 業	△ 25.5	△ 24.5	△ 51.2	△ 55.8
サービス業	△ 12.4	△ 9.1	△ 6.0	△ 4.0

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 26.3	△ 18.0	△ 56.3	△ 34.3
建 設 業	△ 25.2	△ 24.8	△ 37.5	△ 29.1
小 売 業	△ 37.0	△ 31.8	△ 60.5	△ 58.2
サービス業	△ 31.2	△ 25.5	△ 53.1	△ 38.8

2. 県下産業別の景況

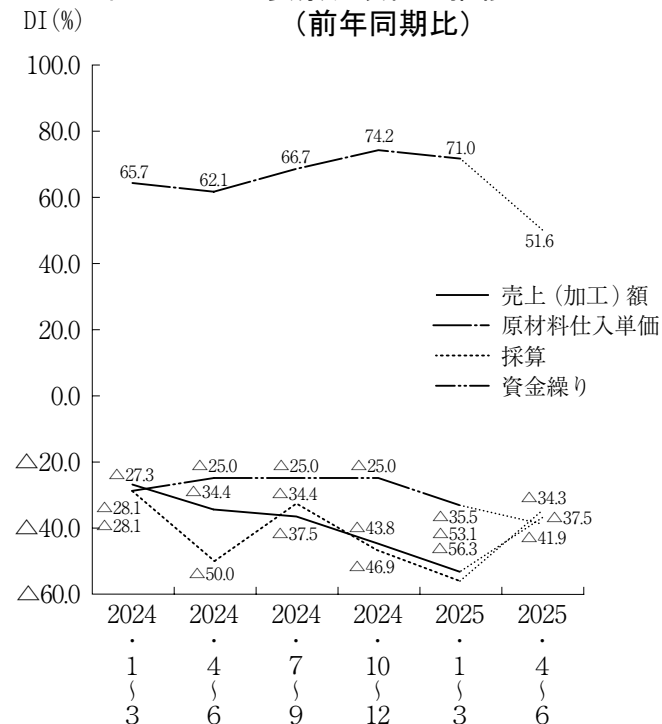
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△53.1（前期△43.8）となり前期比△9.3ポイント悪化、採算D Iでは今期△56.3（前期△46.9）で△9.4ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△35.5（前期△25.0）で△10.5ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 71.0（前期 74.2）と△3.2ポイントの減少となった。

図 1-1 主要景況項目の推移
（前年同期比）



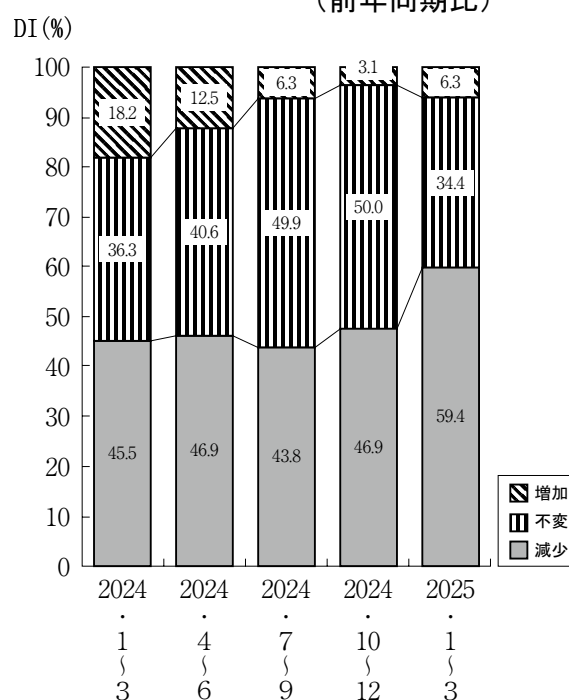
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の6.3%（前期3.1%）で3.2ポイントの増加、「減少」と回答した企業は59.4%（前期46.9%）で12.5ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△53.1（前期△43.8）となり、前期比△9.3ポイントの悪化となった。

図 1-2 売上（加工）額の状況
（前年同期比）

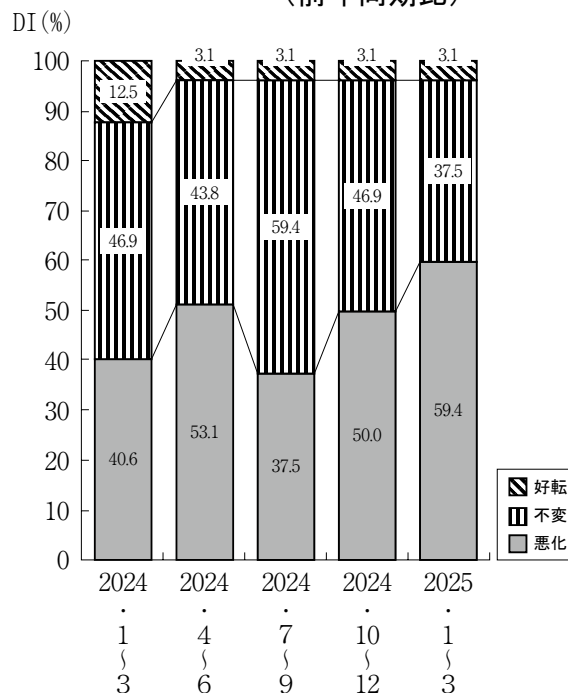


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の3.1%（前期3.1%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は59.4%（前期50.0%）で9.4ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△56.3（前期△46.9）で△9.4ポイントの悪化となった。

図1-3 採算の状況
（前年同期比）



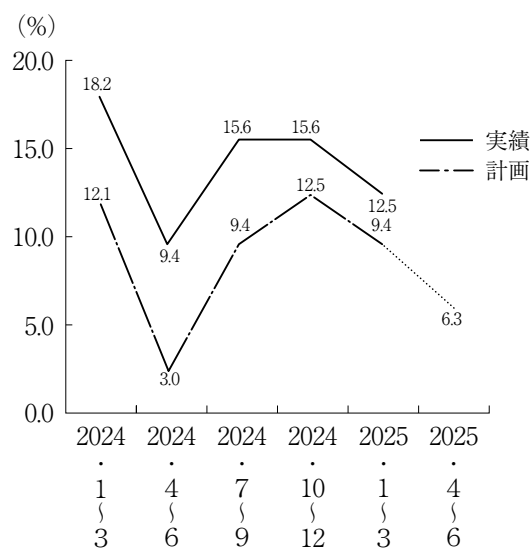
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の12.5%（前期15.6%）で前期と比べ△3.1ポイント減少した。

その設備内容は、土地、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の6.3%で、その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

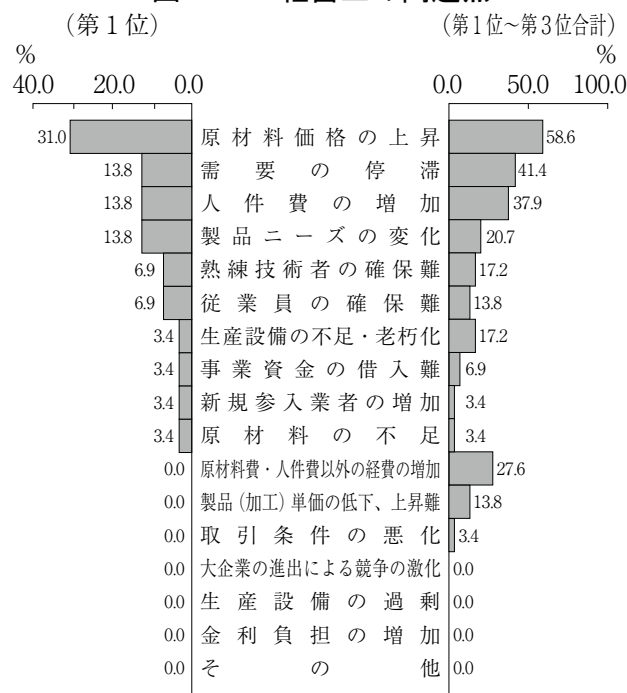


(d) 経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「原材料価格の上昇」で 31.0%、次いで「需要の停滞」「人件費の増加」「製品ニーズの変化」が同率 13.8%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「原材料価格の上昇」が 58.6%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が 41.4%、「人件費の増加」が 37.9%、「原材料費・人件費以外の経費」が 27.6%、「製品ニーズの変化」が 20.7%、「熟練技術者の確保難」「生産設備の不足・老朽化」が同率 17.2%、「従業員の確保難」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率 13.8%で続いた。

図 1-5 経営上の問題点



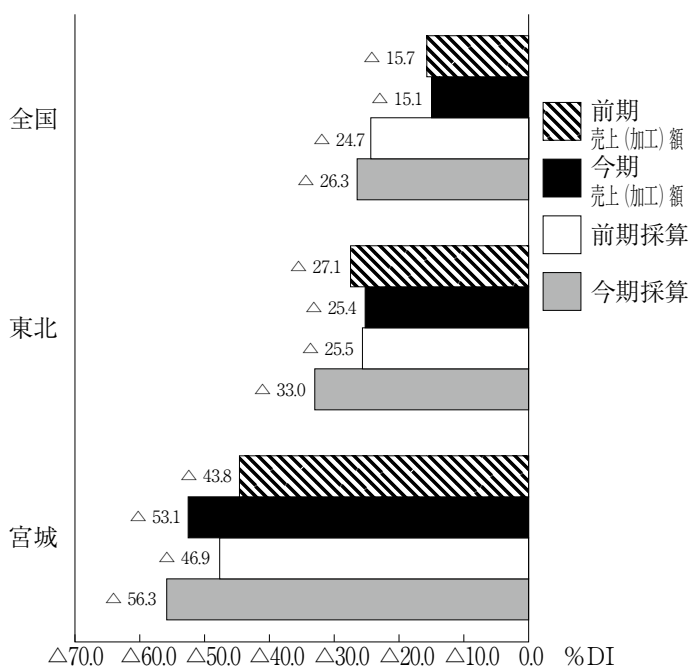
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額D Iは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算D Iでは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは、「原材料が上昇、客先への価格転嫁は難しい」（印刷業）、「減少傾向にある需要、上がり続けるコストに対する有効な手当てを見つけることが困難」（印刷業）、「車載関連の動きが悪化、材料費も上昇の見通し」（金属加工）、「厳しい受注状況の中、賃金環境変化への対応など利益確保がより困難になっている」（木製品）などのコメントが寄せられた。

図 1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



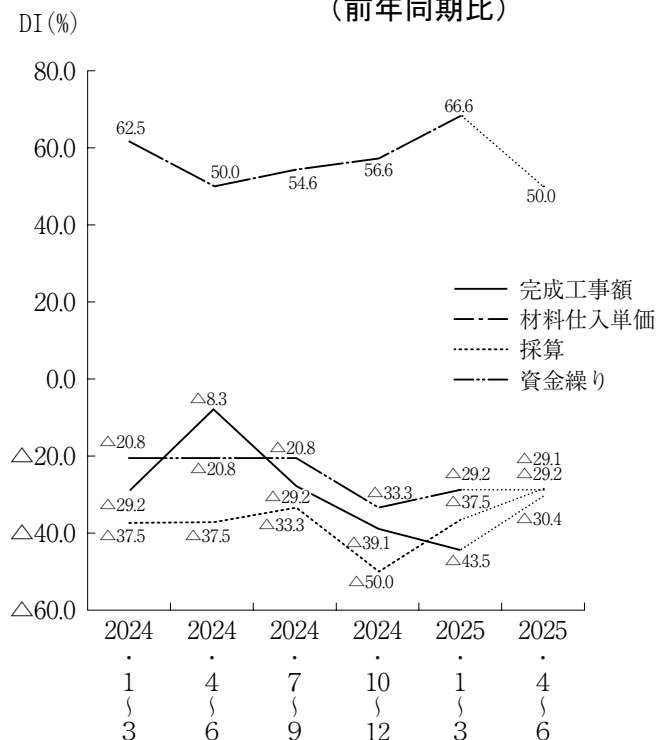
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△43.5（前期△39.1）となり前期比△4.4ポイント悪化、採算D Iでは今期△37.5（前期△50.0）で同12.5ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△29.2（前期△33.3）で同4.1ポイントの改善となった。

材料仕入単価D Iは今期66.6（前期56.6）と10.0ポイントの増加となった。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



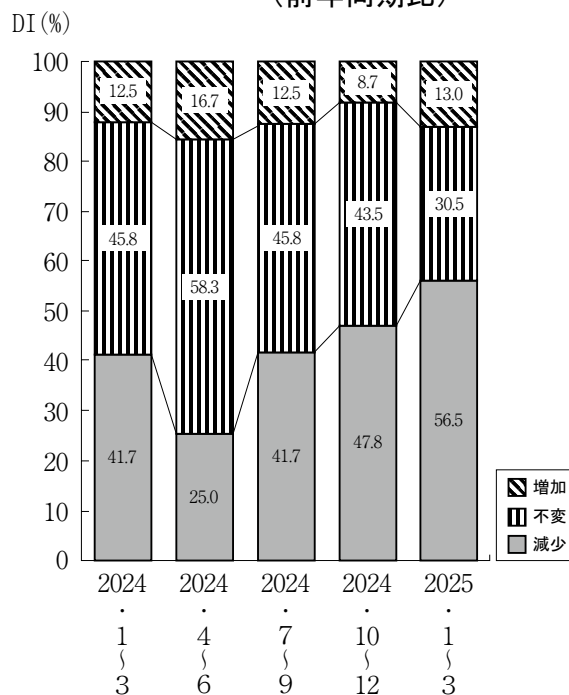
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の13.0%（前期8.7%）4.3ポイント増加、「減少」と回答した企業は56.5%（前期47.8%）で8.7ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△43.5（前期△39.1）となり、前期比△4.4ポイントの悪化となった。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

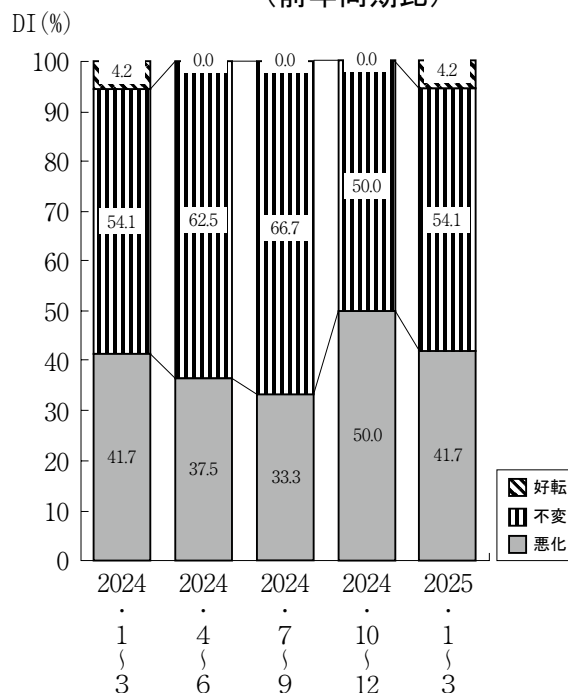


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.2%（前期 0.0%）で 4.2 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 41.7%（前期 50.0%）で△8.3 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△37.5（前期△50.0）となり 12.5 ポイントの改善となった。

図 2-3 採算の状況
（前年同期比）



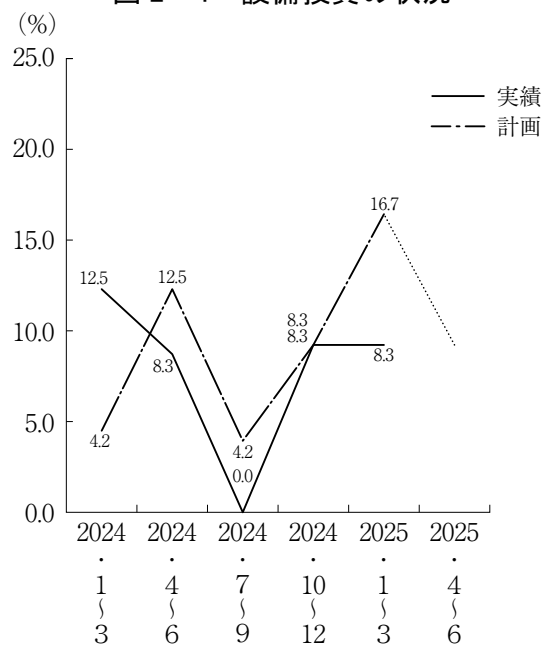
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 8.3%（前期 8.3%）で前期と比べ横ばいだった。

その設備内容は、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 8.3%で、その設備内容は、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 2-4 設備投資の状況

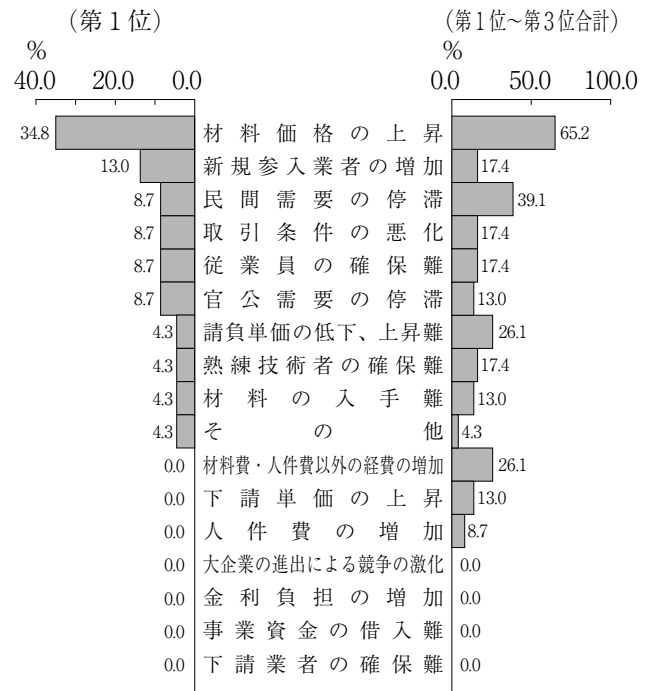


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が34.8%、次いで「新規参入業者の増加」が13.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が65.2%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「民間需要の停滞」が39.1%、「請負単価の低下、上昇難」が同率26.1%、「新規参入業者の増加」「取引条件の悪化」「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」が同率17.4%、「官公需用の停滞」「材料の入手難」「下請単価の上昇」が同率13.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



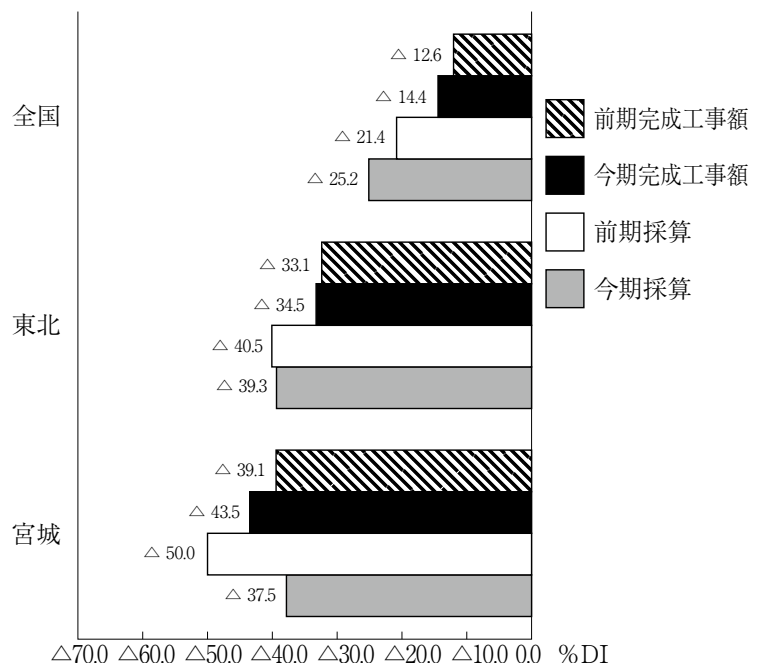
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

採算D Iでは全国で悪化、東北、宮城で改善となった。

本県回答事業所からは、「今年に入り民間からの工事引き合いがほとんどない」（新築リフォーム）、「元請会社の公共工事受注減による下請発注が減少」（土木工事）、「変電設備の納期遅れに伴う工期の延長により、取引条件が悪化」（電気工事）、「諸経費の上昇等により利益率が低下」（窯業・土石）などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



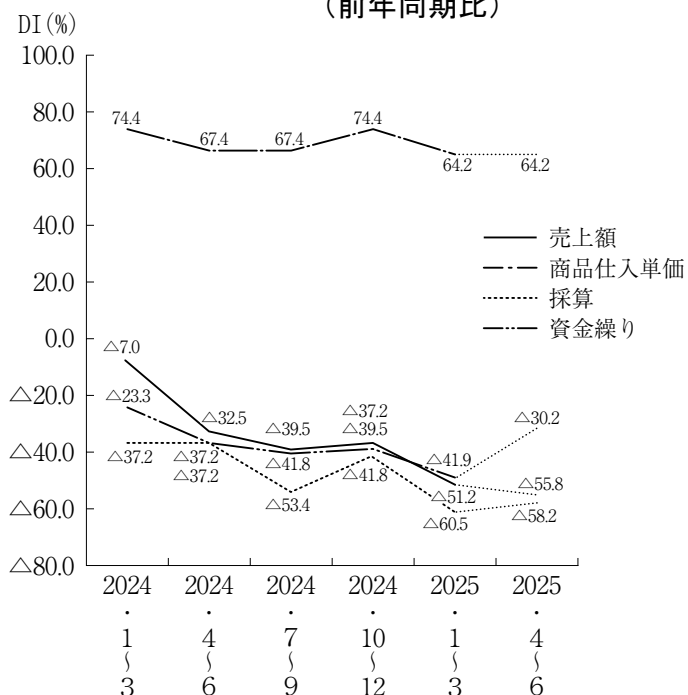
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは今期△51.2(前期△37.2)となり前期比△14.0ポイント悪化、採算DIでは今期△60.5(前期△41.8)で△18.7ポイント悪化、資金繰りDIでは今期△41.9(前期△39.5)で△2.4ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期64.2(前期74.4)で△10.2ポイントの減少となった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



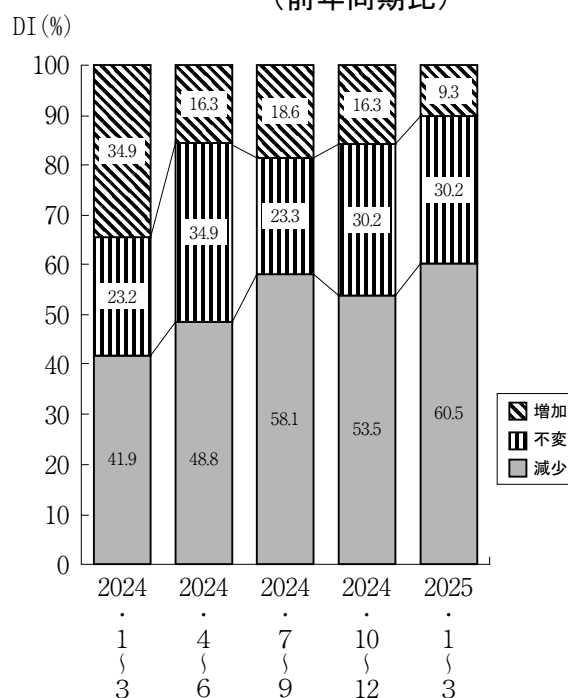
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.3%(前期16.3%)で△7.0ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の60.5%(前期53.5%)で7.0ポイント増加した。

その結果、売上額DIは今期△51.2(前期△37.2)と前期より△14.0ポイントの悪化となった。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

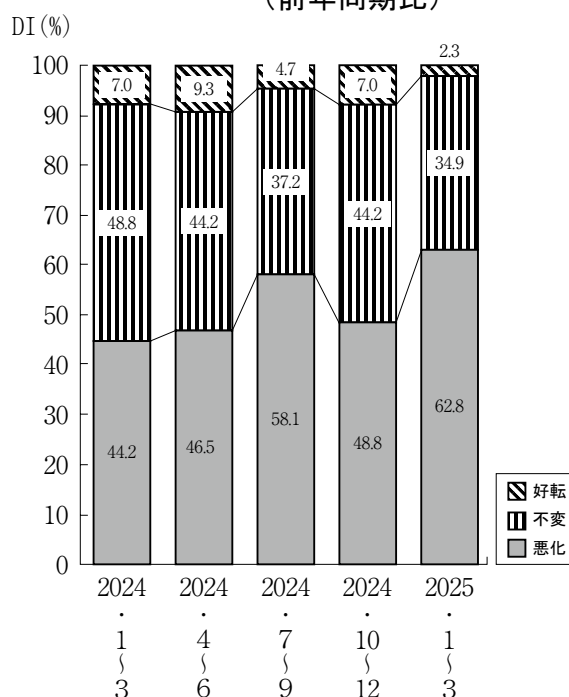


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期7.0%）で△4.7ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の62.8%（前期48.8%）で14.0ポイント増加した。

その結果、採算D Iは今期△60.5（前期△41.8）となり△18.7ポイントの悪化となった。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



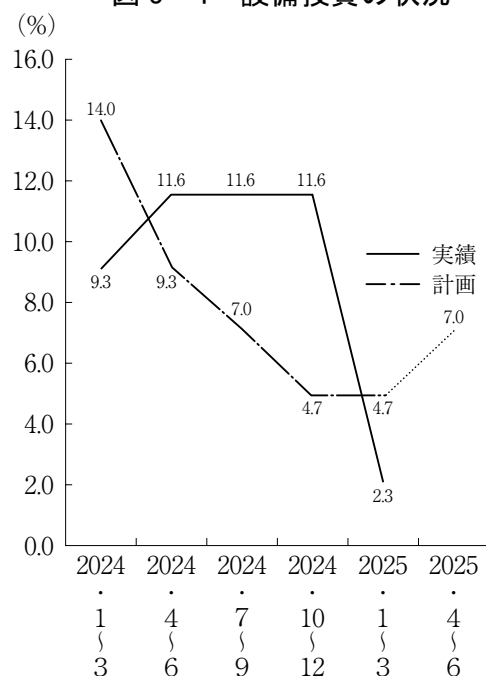
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の2.3%（前期11.6%）で前期と比べ△9.3ポイント減少した。

その設備内容は、店舗、販売設備、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の7.0%で、その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

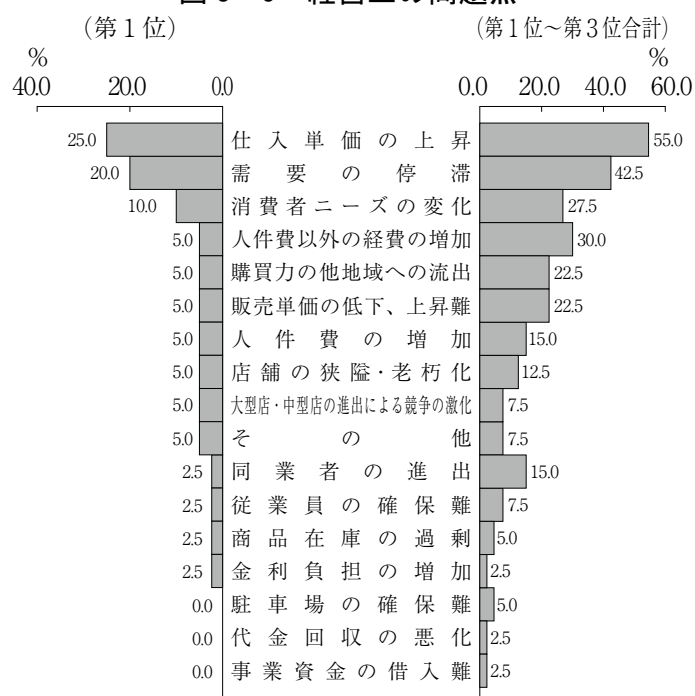


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」が25.0%、次いで「需要の停滞」が20.0%、「消費者ニーズの変化」が10.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が55.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が42.5%、「人件費以外の経費の増加」が30.0%、「消費者ニーズの変化」が27.5%、「購買力の他地域への流出」「販売単価の低下、上昇難」が同率22.5%、「人件費の増加」「店舗の狭隘・老朽化」が12.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



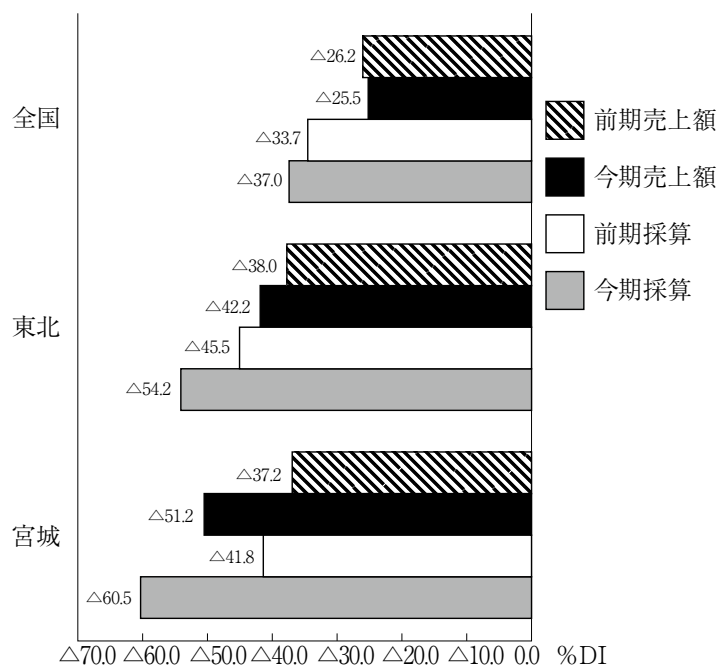
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、で改善、東北、宮城で悪化となった。

採算DIの比較では全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「ご当地雑貨の売上が堅調」（身の回り品）とする一方で、「諸経費、仕入単価の上昇に合わせた価格転嫁を行うも販売数が減少」（海産物）、「大幅な値上げと客単価、ロス発生のバランスが難しい」（食料品）、「高齢化、生活様式の変化、物価など不安だらけ」（飲食料品）、「季節的要因だけではない業況の悪化」（身の回り品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



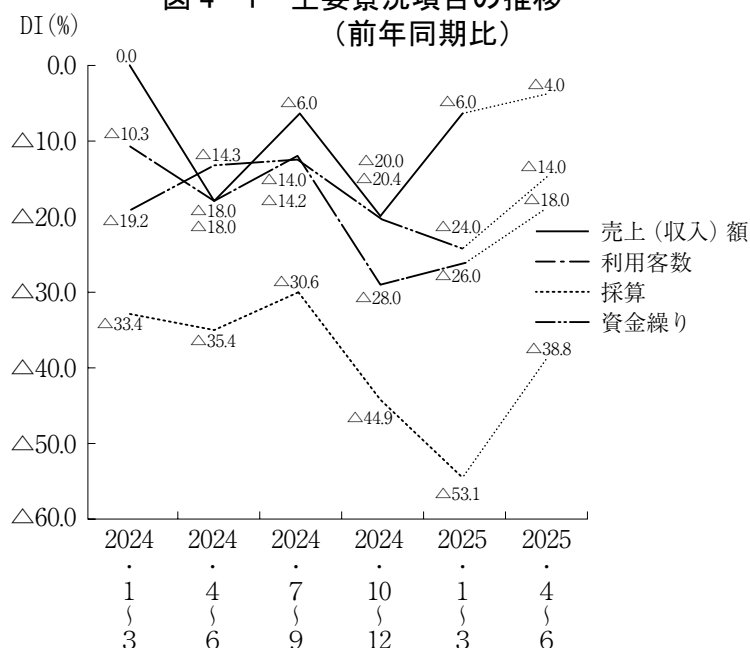
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額DIは今期△6.0（前期△20.0）となり前期比14.0ポイント改善、採算DIは今期△53.1（前期△44.9）で△8.2ポイント悪化、資金繰りDIでは、今期△24.0（前期△20.4）で△3.6ポイント悪化した。

利用客数DIは、今期△26.0（前期△28.0）で2.0ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



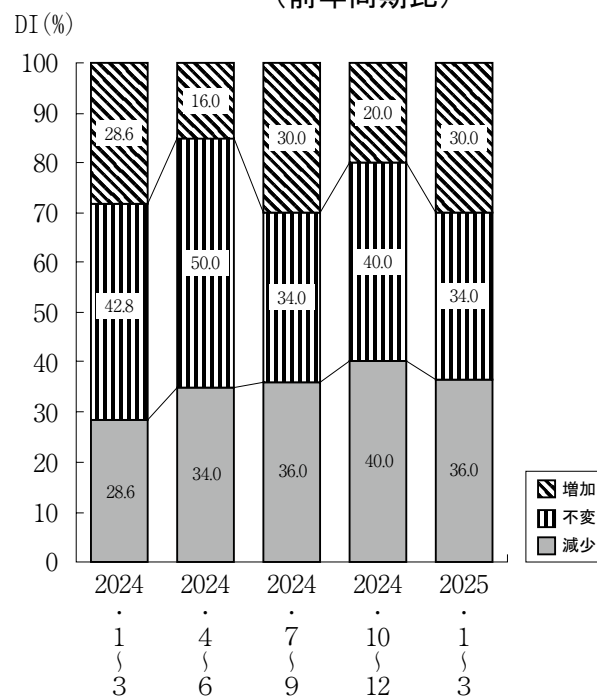
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の30.0%（前期20.0%）で前期より10.0ポイント増加、「減少」の回答は今期36.0%（前期40.0%）で△4.0ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額DIは今期△6.0（前期△20.0）で、前期より14.0ポイントの増加となった。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

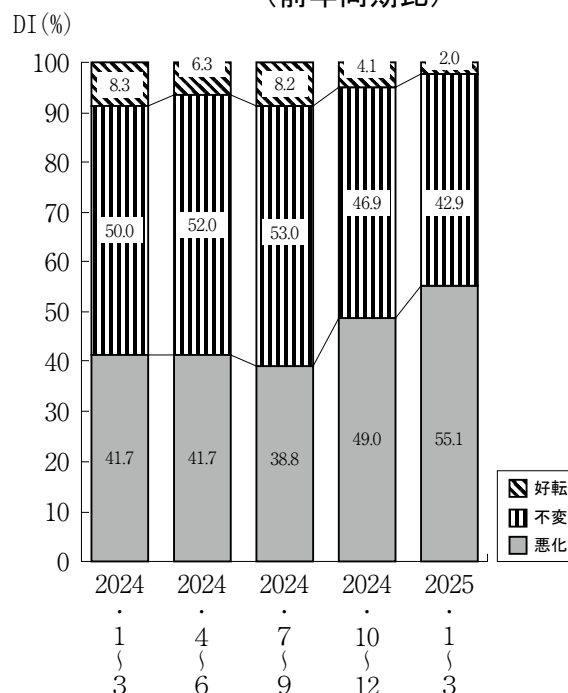


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.0%（前期4.1%）で△2.1ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期55.1%（前期49.0%）で6.1ポイント増加した。

その結果、採算D Iは今期△53.1（前期△44.9）で前期より△8.2ポイントの悪化となった。

図4-3 採算の状況
（前年同期比）



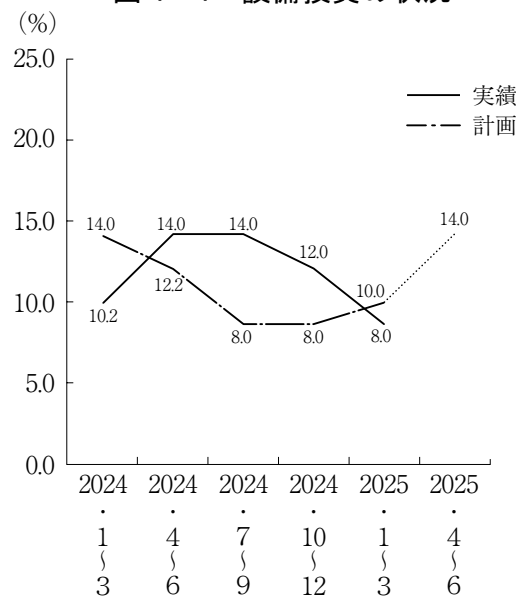
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の8.0%（前期12.0%）で、前期と比べ△4.0ポイント減少した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の14.0%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、付帯施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

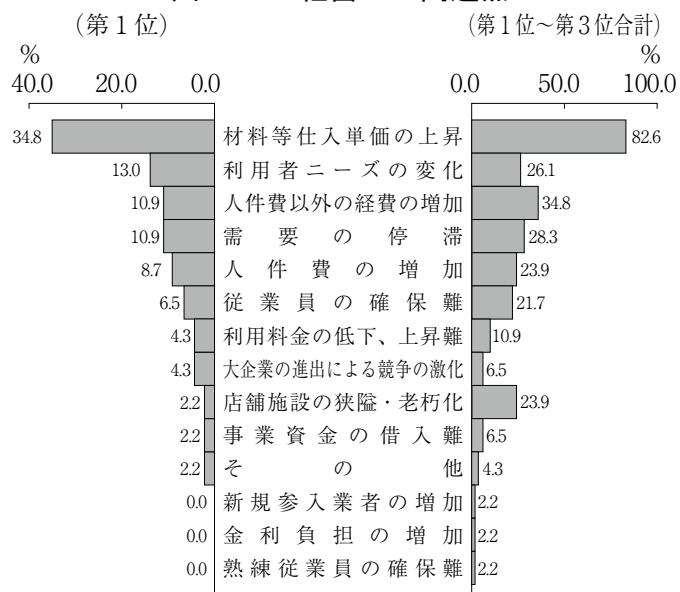


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が34.8%で、次いで「利用者ニーズの変化」が13.0%、「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」が同率10.9%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が82.6%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が34.8%、「需要の停滞」が28.3%、「利用者ニーズの変化」が26.1%、「人件費の増加」「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率23.9%、「従業員の確保難」が21.7%、「利用料金の低下、上昇難」が10.9%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算DI比較では全地域（全産業）で悪化。その悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「来客数の増加により店舗設備拡張を計画」（飲食業）とする一方、「客数と客単価は上昇しているが、仕入価格高騰が著しく先行きが不安」（飲食業）、「人手不足と同業者の進出により業況悪化が懸念」（自動車整備）、「諸物価の上昇、顧客の高齢化による来店頻度の減少」（理美容業）、「地域経済の停滞」「光熱費の高騰や仕入材料の確保、地産地消が困難」（宿泊業）、などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

